

confirmation

コンファーマーション

知っておきたいキリスト教のことば (70)

堅信 けんしん

「けんしん」という読みのキリスト教用語には二種類あります。一つは今日取り上げる「堅信」で、もう一つは牧師などの道を進むことを決意する「献身」です。

「堅信」は洗礼を受けた後に聖霊の授与により、その信仰を新たに堅くすることです。この儀式は、使徒言行録 8 章 16 節の記述が根拠となっております。

初期の教会において、洗礼と堅信は同時におこなわれていました。ところが 5 世紀半ばになると、ヨーロッパを中心とした西方の教会では洗礼と堅信が別々の日におこなわれるようになったようです。

その理由として第一に挙げられるのは、ヨーロッパ各国がキリスト教国になったことによって幼児洗礼が一般化したことです。その結果、信仰教育をしないまま洗礼を受けた人を教育する機会として、堅信前の準備期間が用いられるようになりました。

また初期の教会では司教(現在の聖公会でいう主教)が洗礼も堅信もおこなっていましたが、キリスト教が広範囲に広まったことによって、司教だけでは儀式をおこなうことが物理的に困難になったのも理由の一つです。その結果、洗礼は各教会にいる司祭がおこない、堅信は司教が巡回したときという流れができていきました。

東方教会では現在でも洗礼と堅信は同時におこなわれています。またローマカトリックでは、堅信も秘跡(sacrament)の一つと考え、按手と塗油をもってこの式をおこないます。

聖公会では洗礼と堅信を同時におこなうことも、別の日にすることもあります。教区主教の按手によって、聖霊の特別な恵みが願い求められます。

次回は「高挙」です。お楽しみに。



「聖霊降臨を描いた 15 世紀の写本」

人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

(使徒言行録 8 章 16~17 節)

